

平成 29 年度 第 6 回 国家資格キャリアコンサルタント試験

(JCDA) 実技試験（論述）解答例（中里）

〔問い 1〕 事例ⅠとⅡはキャリアコンサルタントの対応の違いにより展開が変わっている。事例ⅠとⅡの違いを下記の 4 つの語句を使用して解答欄に記述せよ。（固有 経験 感情 ものの見方）（15 点）

事例Ⅰでは、Cct は CL の内面の深い感情に寄り添うことなく、コンサルタント自身の持つ断定的なものの見方と固有の価値観でコンサルティングが進められていくため、CL の気持ちが置き去りにされている。そのため、CL 自身の内的感情は自己不一致を起し、問題解決へは向きにくい展開となっている。

一方、事例Ⅱでは、CL の経験を語ってもらうことで内的な感情を引き出し、さらに、言葉の意味、気持ち、感情に寄り添い共感していくことで、CL 自らが上司との関係が「相互的」でなく、「一方通行」であることに気づき、コンサルティングが深まり、問題解決に向かう展開となっている。（6 行）

〔問い 2〕 事例Ⅰの Cct4 と事例Ⅱの Cct3、Cct5 のキャリアコンサルタントの応答が、相応しいか、相応しくないかを考え、「相応しい」あるいは「相応しくない」のいずれかに○をつけ、その理由も解答欄に記述せよ。（15 点）

事例Ⅰ Cct4 相応しくない

「やる気をなくした」という CL の内的な感情を受け止めることなく、CL が口にしていない「転職」という言葉を発することで、内的な混乱を招く応答である。

事例Ⅱ Cct3 相応しい

「やる気をなくした」という具体的な出来事を尋ねることで、CL の自己内省を促し、自己の感情を明確にし、コンサルティングが展開していく応答である。

事例Ⅱ Cct5 相応しい

「悲しくなった」という CL の感情表現に焦点を当てることで、その奥にある CL 自身の内的感情の言語化を促す応答である。

〔問い 3〕 事例Ⅰ・Ⅱ 共通部分と事例Ⅱにおいて、キャリアコンサルタントとしてあなたの考える相談者の問題と思われる点を解答欄に記述せよ。（10 点）

学校側の求める広報の方向性や仕事内容について確認することなく、上司とのコミュニケーションも不足しているため、相互理解に齟齬があり、信頼関係が築けていないこと。また、自身の強み弱みなどが明確でないため、自身の思い込みで提案したものが否定されるとやる気をなくし、仕事に前向きになれずにいる

こと。

〔問い4〕 事例Ⅱのやり取りについて、あなたなら今後どのようなやり取りを面談で展開するか、具体的に解答欄に記述せよ。（10点）

専門学校の広報担当として学校のPRに尽力してきたことを労い、学校側の求める広報の方向性や仕事内容について、改めて上司に確認してみようことを提案する。また、自身が今までやってきた職務の棚卸しをすることで自身の弱み強み、何に向いているのかなどについて明らかにし、今後、自身の提案等を検討する場を設けてもらうなどして、相互理解を図れるよう促す。上司とコミュニケーションをとることで自身の思い込みに気づき、自己評価を上げ、前向きに仕事に取り組めるよう支援していく。